

資料2 評価対象課題の研究内容と評価結果（概要）

研究課題	1 医薬品・生活関連物質の環境実態及び環境リスク解明に関する研究（R2-R4）
研究目的・背景	高分解能 LC-MS/MS を用いて、医薬品・生活関連物質（PPCPs）の環境実態を把握するとともに、国環研、地環研、国内外の大学等と共同で分析法の開発や環境リスクの解明を目指すもの。
研究内容	<p>&lt;研究①&gt;日韓共同研究：PPCPs の環境実態の把握、日本と韓国における現状の比較等を行う。（国立環境研究所、兵庫県環境研究センター、釜山大学との共同研究）</p> <p>&lt;研究②&gt;国環研、地方環境研究所とのⅡ型共同研究：一部の PPCPs（→環境中濃度が PNEC を超過した事例のある物質）を対象とした環境実態調査、及び高分解能 LC-MS/MS による網羅分析法の開発を行う。</p> <p>&lt;研究③&gt;岩手大学との共同研究：動物用医薬品の分解物等の環境影響を把握するために、高分解能 LC-MS/MS を用いて分解生成物の分析、構造の推定等を行う。</p>
評価結果	<p>○総合評価 A（3人）・B（2人）・C（0人）<del>・D（—人）</del></p> <p>○総合意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本研究は化学物質の環境への影響のみならず、薬剤耐性菌対策の一環とも捉えることができる。環境の健全性だけでなく県民の健康的な生活環境の保護という点からも重要な研究であることもアピールすべきと考える。</li> <li>・世界的な環境課題に対して高度分析手法を機関として有することは意義がある。機関としての目標管理を十分意識してください。</li> <li>・県民にとって重要な課題を含んでおり、推進すべき研究課題と認める。</li> <li>・日常使用する製品中の化学物質の環境実態を把握しようとするものであり、早期に実施するとともに継続して行う必要がある。また、さらに今後は毒性等についても研究を深める必要がある。</li> <li>・医薬品・生活関連物質の環境実態及び環境リスク解明に関する研究は、緊急・重要性が高く、総合的な評価は A 評価と考える。</li> </ul>
センターの対応方針	<p><b>1 研究計画のとおり実施</b>                      2 一部見直しの上実施</p> <p>3 今後再検討<del>（計画再考）</del>                      4 実施しない<del>（中止）</del></p> <p>県民の健康と環境を守るため必要な研究であると認識しており、これまで積み上げてきた環境実態調査、分析法開発等のスキル及び保有の高性能分析装置を活用し、未規制物質の実態を明らかにしていきたい。</p> <p>引き続き、国内外の研究機関と連携して研究を進めて行くとともに、研究成果を広く PR していきたい。</p>

※ 記載欄は適宜調整（拡張）してください。